



# 胃がんリスク検査が始まります

## 胃がんリスク検査とは？

胃がんの発症には、ヘリコバクター・ピロリ菌の感染と、それに伴う胃粘膜萎縮が強く関連しています。胃がんリスク検査は、血液検査でピロリ菌感染の有無を調べるピロリ菌抗体検査と萎縮性胃炎の有無について調べるペプシノゲン検査で判定し、胃がんの危険度を分類するものです。

判定分類	A群	B群	C群	D群
ピロリ菌抗体検査	－ (感染していない状態)	＋	＋	－ (胃粘膜の萎縮が進み、ピロリ菌が住めなくなった状態)
ペプシノゲン検査	－	－	＋	＋
胃がんの危険度	低	→		高
胃がん発生頻度	きわめて稀	1,000人に1人	500人に1人	さらに高確率

## 対象者と受診方法

対象年齢	40・45・50・55・60歳などの5歳刻み年齢 上限なし (平成29年3月31日現在)	
受診期間	4月1日～平成29年2月28日	
検査の対象外となる方	○食道、胃、十二指腸疾患で治療中の方 ○過去にピロリ菌除菌治療を受けたことがある方	○胃酸分泌抑制剤を服用中の方 ○胃切除手術をした方
受診方法	平成28年度中に40歳になる方、27年度に市のがん検診を受けた方、国民健康保険加入者には、4～5月にかけて胃がんリスク検査を含むがん検診受診券冊子を送付します。がん検診受診券冊子が届いたら、市内受託医療機関で受診してください。 ※対象年齢に該当し冊子の送付がない方で、受診希望の方は保健センターへご連絡ください。胃がんリスク検査を含むがん検診受診券冊子を送付します。	



## 胃がん検診の対象年齢・受診間隔が変わります

胃がん検診は、27年度までは40歳以上の方が毎年受診できましたが、28年度から国のがん検診指針の見直しにより、50歳以上が対象となり、受診間隔が2年に1回に変わります。ただし今年度は経過措置として、40歳以上の希望者は受診することができます。保健センターまでご連絡ください。胃がん検診の受診票を送付します。

対象年齢	50歳以上の奇数年齢 (51・53・55歳など 上限なし) (平成29年3月31日現在)
経過措置の対象年齢	40歳以上で上記の対象年齢に該当しない方

